

## 2 自民党議員会政務調査会現地視察

自民党政務調査会は、次年度予算に向けて地域の重点要望箇所について視察をし、その事業化について、力になってくれます。

- ①県道富山戸出小矢部線荒町(大門)地内の道路拡幅。交通量が多い中、場所によっては歩道がほばない箇所もあり、歩行や自転車での通行について非常に危険な状態が続いています。現在、工事中の生源寺地内に続いての事業を要望しています。
- ②県道富山戸出小矢部線黒河(小杉)地内、小杉婦中線との交差点に右折レーン新設(及び右折信号)要望。特に朝夕は右折車が多く、直進車の交通にも支障が出る状態です。安全で、渋滞のない快適な道路環境の実現は住民からの要望が強い分野です。

その声を着実に届けて、実現につなげます。



①県道富山戸出小矢部線荒町地内



②県道富山戸出小矢部線黒河地内

## 3 北部線(高寺交差点・三ヶ)に歩道信号が新設

同交差点は、小学校の間近であり、児童の横断も多い中、南北方向には歩道信号があるものの、東西方向には、歩道信号がなく、改善を警察に求めてきました。歩道信号の設置により、通学路の安全性が高まりました。



## 4 射水シンボルツリー一点灯式&学園祭

富山情報ビジネス専門学校建築デザイン学科の皆さんのご協力で高さ8mのあすなろの木にイルミネーションとオーナメントを装飾。

11月8日。ツリーに光が灯ると、ご来場の皆様に一斉に笑顔が広がりました。

また点灯式にあわせて、学園祭を開催。

小杉駅周辺は南北に大学や専門学校が立地する恵まれた環境。学生さん達と一緒にまちづくりをしたいと始め、2回目の開催ですが、学生の来場者は確実に増え、ダンスやバンド演奏、そしてブース出店や飲食ブースもクオリティ高く、学生さんたちの企画でご来場のお子様たちも楽しんでいただけました。



学生の皆さんとツリーを装飾



シンボルツリー一点灯式の様子

## 5 射水市消防団長に就任

令和7年4月1日、射水市消防団長を拝命しました。

消防団は、『自分たちの地域は自分たちで守る』という郷土愛の精神に基づき、火災のみならず、地震や風水害といった各種災害への対応や、防火啓発など多岐にわたる活動を担っています。団員の皆さまと一丸となって、射水市の安全安心のために取り組んでいきます。



射水市消防団辞令交付式で訓示

### 〈略歴〉

生年月日/昭和50年1月20日生まれ

住 所/射水市三ヶ

経 歴/小杉小学校、小杉中学校、高岡南高校、  
東京都立大学経済学部卒業

家 族/妻、長男、次男

50歳

平成9年4月 富山県庁入庁  
ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、高齢福祉課では特別養護老人ホームの待機者対策などの施策に取り組む。  
平成22年9月 富山県庁退職  
平成23年4月 富山県議会議員に初当選(現在4期目)  
令和5年5月 自民党県連政務調査会長  
令和7年3月 富山県議会副議長

主な役職

自民党射水市連合支部支部長 自民党小杉連合支部支部長

射水市消防団長 保護司(射水市保護司会)

小杉まちづくり協議会会長

NPO法人日本応急手当普及員協会顧問 (令和7年12月現在)

幸せな未来のために  
“真っ直ぐに”

永森直人

県議会通信

Challenge spirit Vol.27  
令和7年12月号 (R7.12発行)

ごあいさつ

### 【富山県議会副議長に就任】

令和7年2月定例県議会最終日において、富山県議会副議長(127代)に選任いただきました。

初当選以来、ご支援ご指導をいただいている皆様のおかげであり、深く感謝申し上げます。武田慎一議長(南砺市選出)を支え、活発で開かれた議会運営に尽力していきたいと思っております。

同時に、自民党議員会政務調査会長として2年間の任期を全うさせていただき、退任いたしました。

豪雨災害や能登半島地震などの災害対応や物価高や人口減少問題、また高校再編などの教育問題や地域公共交通の課題などに取り組み充実した2年間となりました。

(議長席で議事進行を行う様子)



### 【議会改革推進委員長に就任】

富山県議会・議会改革推進委員長に就任いたしました。

初当選の際にお約束したことの一つが議会改革でありました。

地方政治は二元代表制であり、首長(知事や市長)と議会が、責任を分かち合って成り立っています。

しかし、法律の制度設計の期待に反して、予算編成と予算執行権を持つ首長の権限は強大であり、議会は、追認機関となっているのではないかとの批判が絶えずあります。

社会全体が人口増加し、地方でやるべき仕事概ね同一であった時代において、自治体経営で住民サービスに差がでることは少なく、首長と議会の対立が顕在化しにくい面があったのではないかと思います。

一方、今後は、人口減少がさらに加速し、「何を残し、何を残さないのか?」、「何を税金で負担し、何を住民に負担をお願いしなければならないのか?」、あらゆるものが選択の連続となります。

時に、首長(知事や市長)の判断が、住民のニーズと本当にあっているのか、不確かとなるケースが出てくるわけであり、この場合に、法的な権限をもって「待った」をかけることができるのは議会だけです。

議会改革の本質は、この議会に与えられた使命をしっかりと果たすことができるかに尽きるわけであり、そうした視点を忘れず、職務にあたりたいと思っております。



(議会改革推進委員会の様子)

### 結びに

議長と副議長は、本会議における一般質問や予算特別委員会といった場での議会質問の機会がありません。とはいえ、所属する教育警務委員会での質疑の機会がありますし、自民党議員会における教育PTの座長などの役職を通じての活動は可能であり、引き続き、地域の皆様の思いをしっかりと受け止め、寄り添った政治活動に取り組みますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## 県議会副議長 活動報告

### 1 太閤山ランドに新しいアクティビティがオープン

太閤山ランドの新しいアクティビティ施設のオープニングセレモニーに参加しました。

北陸エリアでは初となる池越えジップライン(最長180m)や園内の木々を活かした樹上アスレチックなどのアクティビティ施設に加え、ドッグランやローズガーデンも整備されています。



### 2 高岡支援学校60周年式典

富山県立高岡支援学校の創立60周年記念式典に、武田議長の代理として出席。

全日制県立高校再編という大きな課題もありますが、定時制高校や特別支援学校にも課題は山積です。また地元のフリースクール団体からは来年度予算について宿題も頂戴しました。誰もが自分らしく成長できる教育の実現に向け取り組んでいきたいと思ひます。



### 3 近畿富山県人会に参加

第185回近畿富山県人会に県議会を代表して参加。

明治26年に創立された歴史ある会です。関西地域でご活躍の皆様が300名以上集まるとの盛大な会でした(古城紀雄会長は、地元射水市のご出身)。お集まりの皆様「富山県愛」が強く、富山県への誇りを新たに、大きなエールも頂戴しました。



### 4 立山の塔の慰霊祭を主催

立山の塔は、先の大戦において、沖縄並びに南方諸地域で散華された 富山県ゆかりの14,872柱の御霊をお祀りして、沖縄の南端、摩文仁の丘に、昭和40年に建立されたものです。以来、歴代の県議会議長が富山県南方戦没者沖縄慰霊塔奉賛会長として11月に慰霊祭を行なっています。家族を案じつつ祖国の繁栄を願ひ、その身を捧げられました英霊の御霊に感謝と哀悼の誠を捧げてまいりました。



## 常任委員会における質疑

議員には、一般質問や予算特別委員会など知事が出席しての議会における質疑の機会がありますが、議長・副議長には、その機会がありません。

唯一、質疑ができるのは、所属する常任委員会においてのみです。

私の所属は、教育警務委員会です。委員会の名前のおり、教育行政と警察行政を所管しています。



(委員会質疑の様子)

### 質問① 県内の小中学校における学校給食費の改定の状況はどのようになっているのか?

答 県内市町村の今年度の学校給食費の状況を確認したところ、10の団体で高くなっている。1つの団体では、昨年度より保護者負担額は増額となり、その他9つの団体では、保護者負担額が同額か、または減額となっている。

質問② 給食費の食材費が高騰しており、その負担を保護者に転嫁するわけにもいかず、市町村が実質負担する形になっている。米価高騰により、さらに負担が増加する中、市町村に対し財政支援を充実すべき。

答 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当できる。国では今年度予算の予備費を活用し、この臨時交付金の追加交付を決定された。県の担当課から各市町村に案内をしている。

● 教育警務委員会の様子 ●

## 県政レポート

### 高校再編問題について知事へ提言

自民党議員会の「富山県教育の未来を考えるPT」の座長として、新田知事、教育委員会に対し、高校再編について提言をしました。

高校再編という大事な問題は行政や教育委員会だけで決めてはならず、県民的な議論が必要です。

「地元の高校をなくしてほしくない」、「母校がなくなるのは寂しい」と考えるのは当然のことと思ひます。

他方で、生徒数は今後、激減していきます。多くの県民が、富山県の高校教育がどうあるべきか、自分ごととして考える機会になれば良いと考えています。

県議会は、高校の配置や予算など含め、県政の最終的な意思決定機関であり、その権限行使は、議席をいただいた私たちの大きな責任です。

今後とも、私たち議会に対してもご意見などお寄せいただければ幸いです。



(知事へ提言書を手交する様子)

#### 【自民党議員会教育PTからの提言のポイント】

- 1 高校再編は、学校数の削減が目的ではなく、高校改革の手段であるべき。「学力偏差値」のみが過度に重視され、学校が序列化・ブランド化されている現在の高校教育は、是正する必要がある。
- 2 県は、「令和20年における全日制県立高校学校数を、全県で20校と示したものの、その20校は、どこに設置され、どのような学びができるのかを示していない。具体的な学校名を挙げたうえで、検討が進められるべきである。
- 3 生徒数の減を考えれば、全県20校も理解できないわけではないが、1校あたりの学級数を工夫し、東西バランスや、私立高校の配置(県東部7校、県西部3校)も考慮しながら、25校が適当とした。
- 4 学力偏差値にとらわれない新たな学校の選択肢を提案。
- 5 大規模校については校舎の新設に反対。予算を一点集中でなく、他の学校にも分散し、老朽化し、現代の学びにあっていない他の学校の校舎のアップデートにあてることを提案。

提言書の詳しいものは、ブログにあげてありますので、ご覧ください。

## 地域の声を形に!

### 1 下条川の伐木除去が完了

下条川の景観を損ねていた堤防の樹木や堆積土砂の撤去が、完了しました。

地域住民から長らくご要望をいただきましたが、県土木センターや事業者の皆様のおかげで、難しい作業も無事完了し、春には、美しい桜とスイセンと下条川の三重奏が見られました。



(除去前) 樹木にゴミが引っかかるなど美しい景観を損ねていた。



(除去後) 堤防はすっきりし、景観は大きく改善された。

4 ページに続く→